



中島遺跡 1



十三湖に浮かぶ中島に立地する奈良時代の遺跡。昭和27年(1952)中島南岸より土師器がまとめて出土しました。これらの資料は、早稲田大学の桜井清彦によって東北北部の編年研究に用いられ、「土師器第一型式」として奈良時代に位置づけられました。昭和58年(1983)・60年(1985)には市浦村教育委員会によって発掘調査が行われ、柱穴状ピットが発見されています。

市浦歴史民俗資料館 2

平成元年(1989)開館。「よみがえる中世港湾都市十三湊」をテーマとした常設展示が中心です。考古資料や歴史資料によって、十三湊遺跡の実態と安藤氏の軌跡の紹介、近年の発掘・研究成果を反映させたわかりやすい展示が見どころです。開館時間 9:00~16:00/休館日 冬期間(12月1日~3月31日)/観覧料 一般300円大学生200円小・中・高校生150円/TEL0173-62-2775

十三湊遺跡[国史跡] 3

十三湖と日本海をつなぐ水戸口付近、現十三集落一帯に広がる安藤氏の拠点、中世港湾都市。発掘調査によって、鎌倉時代から室町時代に至る港湾都市の変遷が明らかにされました。中世十三湊の歴史は、鎌倉時代に始まると考えられ、前潟中央部に位置する「前潟地区」から当時の前浜跡や建物跡が発見されています。室町時代前期14世紀後半には、十三

集落を南北に分割する大土塁が整備されるとともに、「土塁北側地区」に都市機能が移されます。以降15世紀前半にかけて十三湊は最盛期を迎えますが、安藤氏が南部氏に敗退する15世紀中ごろには衰退し、居住域を含めた中心部は「土塁南側地区」に再編されますが、まもなく廃絶を迎えることとなります。

十三山湊迎寺 4

浄土宗寺院。本尊阿彌陀如来。由来については、坂上田村麻呂が十三千坊の一院として創建、文治年間(1181~90)藤原秀実が檀林寺として創建、建保3年(1215)法然の弟子金光上人が檀林寺近傍に創建、など中世以前に遡る草創伝承もありますが、元和6年(1620)あるいは寛永2年(1625)空蓮社鈍菅天竜が開基したとされます。中世の五輪塔・宝篋印塔ほか、銅製押出菩薩坐像(奈良)・金銅観音菩薩坐像(平安)・懸仏(鎌倉)などを所蔵しています。

■湊迎寺五輪塔

湊迎寺に安置されていた五輪塔は、明治25年(1892)十三集落南端の通称「長兵衛屋敷」から発見されました。男鹿半島産の石材が用いられ、鎌倉時代後半から室町時代前半にかけての造塔と推定されています。また、長兵衛屋敷跡付近には、現在も1基の板碑が祀られています。なお、長兵衛屋敷出土の五輪塔は、現在市浦歴史民俗資料館に展示されています。

湊栄山願龍寺 5

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。慶長元年(1596)もし

くは慶安元年(1648)佐渡国願龍寺の雪典草創と伝えられます。安永8年(1779)焼失しましたが、再建され現在に至ります。

伝壇林寺跡(露草遺跡) 6

十三集落南方、現在「隠居跡」と通称される場所にあったとされる中世寺院。永暦元年(1160)藤原秀衡の弟、秀栄開基との伝承があります。発掘調査によって、掘立柱建物跡・土塁跡・区画溝、墳墓等が発見されているほか、15世紀中葉ごろの陶磁器・茶臼、五輪塔・懸仏などが出土していることから、十三藤原氏というよりも、安藤氏に関連した宗教施設と考えられます。

中世水戸口跡・湊明神宮(浜の明神跡・明神沼遺跡) 7

十三湊が殷賑を極めた中世当時の水戸口は「古水戸」とも称され、現在の水戸口の南方4km、明神沼南端に位置します。付近の高台には、船乗りの信仰を集める湊明神宮があります。文久3年(1863)境内造成に伴い、懸仏をはじめとする119点の宗教遺物出土したとされ、うち一体の懸仏が湊迎寺に伝えられています。

高山稲荷神社 8

祭神宇迦之魂命・佐田彦命・大宮売命。創祀については、元禄年間(1688~1704)赤穂浪士寺坂某が奉持した赤穂城鎮守の稲荷大明神の神霊を、その子孫が宝暦年間(1751~64)当地に祀ったとする説、また慶長年間(1596~1615)牛瀧村三五郎が、京都伏見稲荷神社から神霊を勧請したとする説、鎌倉期に牛瀧城主政子某が北門守護のために勧請したとする説などがあります。以来農業・漁業の神として信仰を集め、信徒は全国に及ぶとされます。境内入口の手にチェスポロ一号遭難慰霊碑があります。

チェスポロ一号慰霊碑 9

明治22年(1889)10月暴風に遭ったアメリカの貨物船チェスポロ一号が、七里長浜沖で座礁大破、車力村民による必死の救助活動により、乗組員4人が救助されましたが、19名が遭難しました。明治24年(1891)牛瀧柏山の墓地に犠牲者の慰霊碑が建立されましたが、昭和24年(1949)日本海を見下ろす高山稲荷神社境内入口付近の高台に移設、さらに昭和45年(1970)新たな慰霊碑が建立されました。

豊富遺跡 10

豊富集落北端、屏風山地東麓の台地に立地する平安時代の防御性集落。平成4年(1992)土取り工事の最中、厚さ1mに及ぶ砂層下より、数条の空壕跡と巨大な井戸跡が発見されました。緊急調査によって、竪穴建物跡・井戸跡・土坑・溝跡などから構成される集落と、それらを区画する空壕跡が発見されました。土師器・須恵器ほか、北海道起源の擦文土器が大量に出土しました。漁網の土製錘や、羽口・鉄滓など鉄生産に関わる遺物も見つかりました。岩木川下流部左岸で発見された初の古代防御性集落として重要な遺跡です。

袴形池 11

屏風山東麓にある溜池。面積19.1ha・有効貯水量57万2,000■・灌漑面積80ha。築造年代は不詳ですが、菅江真澄『外浜奇勝』に記録されていることから、寛政8年(1796)以前の築造と考えられます。同書によれば、袴を洗っていた女性が誤って転落したという故事から、あるいは池の形が袴に似ていることから、「袴湯」と称されるようになったとされます。

碇子館跡 12

車力集落東端、丘陵先端に位置する城館。宅地化が進行していますが、一部に空壕が認められます。中世武将碇子壇正の館跡と伝えられますが、土師器や多量の鉄滓が採集されていることから、古代防御性集落として利用された可能性もあります。

牛瀧(1)・(2)遺跡 13

屏風山地東麓、牛瀧溜池北側の低丘陵地に位置する縄文前期集落。旧車力村教育委員会・つがる市教育委員会の発掘調査によって、縄文時代前期を中心とした遺構・遺物が発見されています。縄文前期の集落は、長径10mに達する大形竪穴住居跡ほかからなる居住域と、土坑墓などの墓域から構成されています。漁網の石製錘や、シジミを貯蔵した土坑などが発見されていることから、漁撈活動が盛んであったようすがうかがわれます。

牛瀧池 14

屏風山東麓に位置する溜池。面積40ha・有効貯水量160万?・灌漑面積163.7ha。慶長年間(1596~1615)に築造が開始され、天和年間の補強工事を経て、元禄3年(1690)ころ完成したとされます。